

第 12 次 労働災害削減運動方針(平成 29 年度)

平成 29 年 4 月 1 日
一般社団法人日本砕石協会

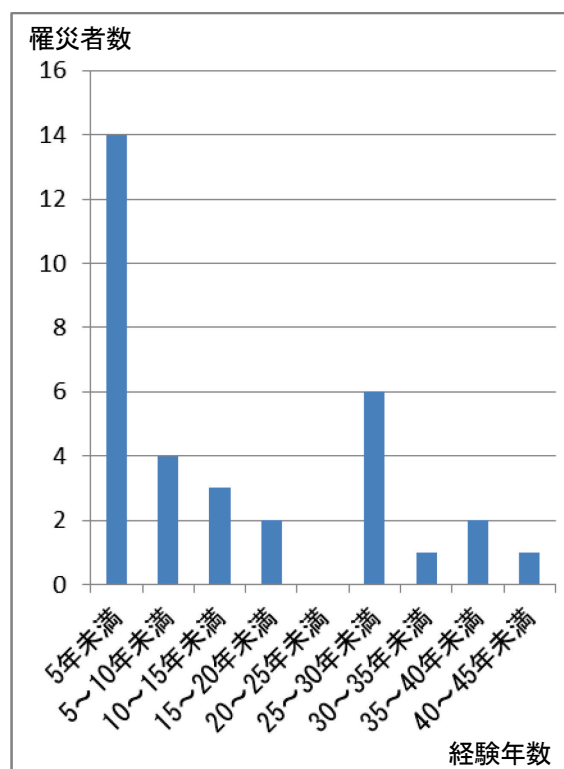
日本砕石協会では、砕石業に係わる労働災害の多発防止対策として、昭和 57 年度を初年度とする第 1 次労働災害半減運動をスタートさせ、以後労働災害削減運動方針に基づき、労働災害対策を実施してきた。そのような中、平成 28 年度からは第 12 次労働災害削減運動方針を開始しており、平成 29 年度はその中間年度となる。

会員企業各位の取り組みにより、砕石業における労働災害は長期的には減少傾向を示しているものの、近年は増減を繰り返す状況が続いている。平成 28 年度の死亡災害発生件数は3件となり、前年度と比べて発生件数が半減する結果となった。しかし、当協会が目標として掲げている死亡災害ゼロの実現には至っておらず、毎年、類似災害の頻発や作業経験年数 10 年未満の労働者の重篤災害の多発(図-1)が顕著となっているため、それらの対策が急務となっている。今後さらに砕石業界の労働災害を減少させていくためには、会員企業において安全意識の高揚や安全対策により一層取り組んでいただく必要がある。

会員企業各位におかれましては、第 12 次労働災害削減運動を進めるにあたって、自主的な労働災害防止活動に努めるとともに、災害防止効果が大きいといわれている「KY・ヒヤリハット・リスクアセスメント」の実施やその活性化に取り組んでいただきたい。また、平成 27 年度に作成した『採石業における現場責任者(採石のための掘削作業主任者および職長)能力向上テキスト』等を活用した安全教育をお願いしたい。

図-1 平成 23~27 年度

経験年数別 罹災者数(死亡災害)



1.労働災害削減の目標

- ① 死亡災害「ゼロ」を目指す。
- ② 災害率半減を目指す。

第12次労働災害削減運動方針の目標として死亡災害「ゼロ」および災害率半減を目指す。数値目標としては、死亡者数「ゼロ」および災害率は平成22～27年度の6ヶ年間の実績平均値の50%削減を労働災害削減運動期間3ヶ年の目標と修正した。

(参考)平成22～27年度の災害発生状況および第12次労働災害削減運動方針の数値目標

年 度	発生件数	死亡者数	災害率
平成22年度 実績	33	2	15.29
平成23年度 実績	37	6	20.82
平成24年度 実績	45	5	22.57
平成25年度 実績	47	2	24.40
平成26年度 実績	52	6	21.79
平成27年度 実績	31	6	20.57
平成22～27年度 実績平均値	41	4.5	20.91
平成28年度 実績	-	3	-
平成28～30年度 目標値	-	0	10.46

- (注) 1) 発生件数は、軽傷以上の災害件数を示す。
2) 災害率は、稼働延べ100万人当たりの災害率を示す。

2.労働災害防止対策

(1) 対策の基本事項

- ① 企業トップによる全社的な安全意識の高揚運動を展開する。
- ② 安全な労働環境の整備と5S運動を推進する。
- ③ 安全管理体制の確立と安全教育の充実を図る。
- ④ 組織と個人が安全を最優先とする「安全文化」を根付かせ、自主的に安全衛生対策推進される仕組みを確立する。

(2) 重点実施対策

特に、以下4点の重点実施に努める。

- ① 「採石業における現場責任者(採石のための掘削作業主任者および職長)能力向上テキスト」を活用した安全教育を実施し、類似災害を防止する。
- ② リスクアセスメントの実施により災害リスクの低減化を図る。
- ③ 作業経験10年未満の労働者に対し、もれのない手厚い安全教育を実施する。
- ④ 充実したKY活動により、職場のヒヤリハット情報の周知・共有化を図る。

さらに、以下について実施に努める。

- ⑤ 支部災害対策委員会の活性化、災害検討会、安全大会開催を推進する。
- ⑥ 自主安全衛生パトロールを実施する。月初めの日を安全の日と定め、月1回以上、管理者、従業員を交えた安全パトロールを実施し、不安全個所の改善等の検討会を実施する。
- ⑦ 従業員の健康管理と高齢者のための安全な職場環境作りを推進する。
- ⑧ 関係官庁との連携強化を図る。
(パトロール立会、教育の講師依頼や不断の連絡指導)
- ⑨ 上記諸対策の推進のために、会員事業所や支部において安全管理体制を年度の初めに見直し、年間安全管理教育計画を具体的に策定し実行する。

3. 砕石安全スローガン

- リスクアセスメントの実施と充実で災害リスクの低減を図ろう！
- 経験の浅い従業員への安全教育の実施と充実で災害を未然防止しよう！